



「甘やかしていますか？ 甘えさせていますか？」

校長 坂本 勉

新緑におおわれた美の山に薫風が吹きわたり、思わず深呼吸をしたくなるような気持ちのよい季節となりました。子供たちは休み時間を待ちかねたように運動場に飛び出し、さわやかな風と光をいっばいに浴びながら、夢中になって遊んでいます。

今回は「甘やかすこと」と「甘えさせること」について書きます。甘やかすことと甘えさせることの線引きは必要です。甘やかすとは、周りの大人の都合で子供に何かをさせようとしたり、親の都合で子供に言うことをきかせようとしたりすることです。この甘やかしの例が子供ができることをさせないで、先回りして大人がやってしまったり、必要以上に干渉したり、危ないから、心配だからと子供がやろうとしていることをやらせない「過保護・過干渉」という甘やかしです。

それに対して「甘えさせる」はあくまでも子供が主体で、子供のペースが守られている状態です。「甘える」ということは、本来とても良いことなのだと私は思います。それは、子供がどうしてもできないことを手伝ったり、子供の思いを受け止めてそれに応えてあげたりすることで、子供は愛情を受け取れるからです。相手を信頼しているからこそ、親や大人に甘えることができるのです。

一方で、子供の甘えを親が受け止めてあげられないと、子供は親からの拒絶感を感じ、親から自分は信頼されていないという思いを持つこととなります。子供のとき、甘えが満たされていないと、愛されているという実感が持てずに不安になりやすく「自己肯定感」は低くなります。

十分甘えさせてもらえた子供は、人を信頼するようになり、情緒も安定します。子供が成長する過程で、必要なのがこの「甘え」なのではないでしょうか。身近な大人との関係の中で、しっかり甘えさせてもらえた子供は「自己肯定感」が育っていきます。「自己肯定感」が高まると、失敗しても必要以上に自分を責めることなく、人に助けを求めたり、自分の弱い部分を見せたりすることも恐れません。また次に頑張ろうという意欲に切り替えることもできます。こうした子供は、人を信じる力も強く、相手に対する思いやりも深くなります。子供は甘えが満たされることにより「自分は愛されている」と感じられ、その揺らぐことがない「安心感」が土台となり、成長でき、自立に向かうことができるのです。

そうはいっても「甘やかすこと」と「甘えさせること」の線引きは難しいです。今の言動は、「甘やかしたのか、甘えさせたのか」など、時には振り返ってみることも必要なのかもしれません。

ゴールデンウィークが始まります。コロナ感染症も心配ですが、子供たちが家族のみなさんに甘えられる場面や時間を数多く作っていただくと幸いです。子供が親に甘えてくる期間は短いのですから…。

